4-75

教理綱要

全

228

特49
806

教理綱要

目次

○生物と無生物……一頁
○人間の魂……三頁
○天使……四頁
○神……六頁
○神のペルソナ……九頁
○元祖と元罪……十一頁
○御贖ひと御苦難……十九頁

明治
38 4 10
交内

○古聖所及御復活と御上天……二十一頁
○天主教會……二十四頁
○人の四終……二十八頁
○人の眞道……三十二頁

教理綱要

フェラン 著

生物と無生物

世にあるとあらゆる萬物の中に、土や水や空氣や金石等の如き物は聊かも生活力を有せざるものなり、此等の物を無生物と云ふ。生活力を多少にでも有するものあり、此等を生物と云ふ、生物には草木等の植物は成長し、實を結び種子を生ずるのみの生活力を有するなり、鳥魚獸等の動物は植物の如く成長し、子を産み、種子を生ずるの外、尚且つ自ら運動し、勝

手に場所を替へるだけの力を有するなり、人間は植物の如く成長し、子を産み、種子を生じ、又動物の如く自ら運動し、場所を勝手に替へるの外、尚且つ道理を辨へ、事理の分別を致し、善惡の差別を知り、發明を爲し、言と筆とを以て我が思を現はし、又自由自在に働をなす力を有する者なり。生物は無生物に勝り、生物の中にも動物は植物に勝り、人間は動物に勝るものなり。人間は世に見ゆる萬物に勝る者にして、萬物の靈長と呼ばるゝなり。人間に勝るものあり。之を天使と云ふ。天使に勝るものあり。之を神と云ふ。神に勝るものは無し、

總て礦物、植物、動物、人間等は肉眼に見え、或は耳に聞へ、或は手に或は他の感覺に觸るるものなり、此等を有形物或は物體と云ふ、然し乍ら肉眼にも見えず、耳にても聞へず、手にも、感覺にも、觸れず、色や形や寸方等無くして而も生活力を有するものあり。此等を無形物或は靈と云ふ、靈は三つに分たる。第一人間の魂、第二天使、第三神是なり。

人間の魂＝人間の肉體には靈魂なるもの配合す。其の靈魂は無形物或は靈なり、靈は凡て人に在る智慧、分別、辨識、自由、善等の源なり。之を靈魂と云ふ。人の肉體は

父母より受け、漸々成長し、壯健となり、又年を取れば衰へ、遂に死ぬるものなり、死して後は腐る可き者なり。靈魂は父母より産れずして直接に神に造られ、年を取るに從つて成長す、る事無く、變化する事無く、衰へ死ぬる事無けれども、肉體を離るる時あり、靈魂の肉體を離る事を死と云ふ。人の死ぬると云ふは靈魂の肉體を離るる事なり。靈魂は肉體を離るると雖ども自らは死せず、腐らず、不滅にして永遠に活く可きものなり。

天使＝人の靈魂に勝れる靈を天使と云ふ。人の靈魂の肉體に配合するは當然なれ共、天使は肉體に配合す

るものに非ず、純乎たる靈なり。天使は人の靈魂よりも遙に勝れたる智力、能力、善力、自由力等の德を有するものなり。天使は人間より餘程前に神に造られたるものなり。天使の數は夥しきものなり。元と天使は皆善なるもの美なるものにして神の御寵愛と神の御幸福とを受けたる者なれとも、彼等の中三分の一は罪を犯し、神を汚したるにより惡となり、神に捨てられ、神の御寵愛と御幸福とを失ひ、地獄にをとされたり。此等を魔鬼或は惡魔或は又鬼と云ふ。惡魔は何時迄も惡に持續し、神に捨てられたる者なれば、最早改心する事能はず、神を

父母より受け、漸々成長し、壯健となり、又年を取れば衰へ、遂に死ぬるものなり、死して後は腐る可き者なり。靈魂は父母より産れずして直接に神に造られ、年を取るに從つて成長する事無く、變化する事無く、衰へ死ぬる事無けれども、肉體を離るる時あり、靈魂の肉體を離る事を死と云ふ。人の死ぬると云ふは靈魂の肉體を離るる事なり。靈魂は肉體を離るると雖ども自らは死せず、腐らず、不滅にして永遠に活く可きものなり。

天使＝人の靈魂に勝れる靈を天使と云ふ。人の靈魂の肉體に配合するは當然なれ共、天使は肉體に配合す

るものに非ず、純乎たる靈なり。天使は人の靈魂よりも遙に勝れたる智力、能力、善力、自由力等の德を有するものなり。天使は人間より餘程前に神に造られたるものなり。天使の數は夥しきものなり。元と天使は皆善なるものの美なるものにして神の御寵愛と神の御幸福とを受けたる者なれとも、彼等の中三分の一は罪を犯し、神を汚したるにより惡となり、神に捨てられ、神の御寵愛と御幸福とを失ひ、地獄にをとされたり。此等を魔鬼或は惡魔或は又鬼と云ふ。惡魔は何時迄も惡に持續し、神に捨てられたる者なれば、最早改心する事能はず、神を

愛するを得ずして、神をも善き天使をも又人間をも嫌ふものなり。惡魔は人間を嫌ふが故に之を惡の道へ引き誘ひ、之を地獄に陷さんと謀るものなり。神に忠義を盡したる善き天使は何時迄も善に繼續し、神に愛せらるゝものなれば、最早罪を犯す事能はず、神を愛し、隨つて人間をも愛し、且つ之を保護する者なり。人各々其の誕生より死に至るまで一人の保護する天使あり。之を守護の天使と云ふ。其天使は人を善の道に引き進め、之を天國に導くものなり。

神＝萬物の上に位し、限りなく萬物に勝りて、無上至

尊なる者を神と曰ふ。神は萬物を無より造り出し、萬物に其德を與へ、萬物を治むる者なり。神は世に現はるる生活や、美觀や、順序や、全善等の源なり。萬物にある德には限りあり、神にある德には限り無し、神は即ち萬善萬德を全き程度限り無き程度に有するものなり。萬物には始めあり、萬物は神に造られたるものなり、神は始め無し、神は他の者に造られずして自ら存するものなり。神の外には始め無き者なし、神は自ら終り無きものにして、人の靈魂と天使とを終り無き者と結ひたるなり。神は定まれる場所に止まらず、定まれる所に限ら

れ、無邊無量にして何處にも在して、萬物に透徹し、而して自らは萬物より透徹せられざる者なり。蓋神は在さざる所無し。神の智力は限り無きものなれば、神の知らざる所のものも無く、神に見えざる事も無く、神に蔭さるる者も無きものなり。神の智慧を全智と云ふ。神の能力は限り無きものにして、能はざる事無し。神の力を全能と云ふ。神の美觀、愛憐、寵愛、善良、等の德は皆限り無き者なり。神は絶對完全なるものなれば、いささかも不足無し、例へば誤り、苦み、心配、不注意、不義、不公平、變心、當惑、悔恨、等の不足は有る可からず。

神のペルソナ＝神は一體なり、二つの神は有る可からず、一體なる神には三つのペルソナあり。ペルソナと云ふは自ら自由に働く者なり。動物は自由を有せざるが故ペルソナと云ふ能はず。人間と天使は自ら自由に働らくものなれば、ペルソナあり。一人の人間には一つのペルソナあり、一人の天使にも一つのペルソナあり、一體なる神には三つのペルソナあるなり、神の三つのペルソナを稱し奉るには第一番目を父と云ひ、第二番目を子と云ひ、第三番目を聖靈と云ふなり。父も子も聖靈も孰も神のペルソナにして、又神の本性を有するも

のなれば、孰れも神なれども三つの神には非ず、一體の神の三つのペルソナなり。此の三つのペルソナには前後上下の差別無く、孰も同じく始めも無く、終りも無く、孰れも亦同じく全智全能絶對完全なるものなり、三つとも共に全く相並び、相互に離れず、何處にも同じく在すなり。日が光を絶へず生ずるが如く、聖父は絶へず聖子を生み、日と光とより熱の發するが如く、聖靈は聖父と聖子とより絶へず發するなり。聖子を生む聖父は第一のペルソナなり、聖父より生まるる聖子は第二のペルソナなり、聖父と聖子とより發する聖靈は第三のペルソナなり。神は一體にして三つのペルソナを有する事は人の淺智に曉られざる不可思議なる玄義なり。

元祖と元罪

今日の如く地球上に有ると有らゆる總ての人間は悉く皆同じ元祖より出で來りたる者なり。人間の人祖なるものはアダムとエワ是なり。アダムは最初の男、エワは最初の女なり。アダムとエワは父母より産れず、自然に自生せず、猿等の獸より起り來らずして、直接に神より造られたるものなり。神は土の埃を以てアダムの肉體を造り、之に無より造られたる靈魂を配合し玉ひたり、神はアダムの肋骨を以てエワの

肉體を造り、之にも無より造られたる靈魂を配合し給ひて、彼等二人を夫婦と定め給ひたり。

神は彼等に種々の超自然なる賜物をたまわりたり、即ち第一其の靈魂に聖寵を有する事、第二其肉體は勞苦せず、痛みを覺へず、病難に罹らず、死する事等無き事、又後に必ず天國に昇りて、永生と榮福とを受くる約束等の事是なり。神は彼等を萬物の靈長と定め、萬物を彼等に從はしめ、彼等を樂園と云ふ立派なる所に置き玉ひて、彼等をして神を忘れぬ樣僅かなる禁制をなし玉ひたり。其禁制は即ち樂園にある一本の樹の實を食する

勿れ、食すれば死すと云ふ事なり。惡魔は人間の幸福を妬み、蛇の形を以て女エワに現はれ、之を巧に欺き、禁ぜられし樹の實を食せしめ、神の戒を破らしめたり。又エワは夫アダムにすゝめて同じく神の戒を破らしめたり。人祖は斯くて大なる罪を犯したれば、神より罰を與へられて超自然の賜物を取られ、靈魂は聖寵を失ひ、肉體は勞苦を爲し、痛みを覺へ、病難に罹り、死ぬ可きものとなり、又彼等が最早天國に昇る權利を失つて、永世と榮福とを受け得ざる樣になりたり、人祖の犯したる罪を元罪と云ふ。人祖は其罪の汚れと罰とを子孫に移し

たれば、是等より産れたる者は其元罪の汚れを以て生れたるなり。其結果は今日迄續くなり。人が母の胎内に宿る時は、其靈魂には聖寵なく、生れてより種々に苦しみ、難儀心配を覺へ、病氣をなし、汗を流し骨を折り、遂に死に歸す可き者にして、死して後には天國に昇ることは能ざる者なり。人々は皆殘らず人祖の罪の遺産を受けて、元罪の汚を以て生るるなり、元祖の爲めに神と人類との交誼破れて、神の聖寵は世に降らず、人間は超自然の賜物を頂く能はず、天國の門は一般の人類に鎖されたり。此等の事は皆人祖の罪の結果なり。

救世主耶蘇基督＝神と人類との交誼を復し、再び神の聖寵を世に降らせ、再び人間に超自然の賜を與へさせ、再び人間に天國の門を開き玉ひたる者あり。彼は人祖の犯したる元罪を全く償ひ、其元罪に依て汚されたる神の全善と正義とに贖を爲さんとて一切人間の代りに犧牲となりたるものなり。之を救世主耶蘇基督と云ふ。

救世主耶蘇基督は元と神に在す二番目のペルソナたる聖子にして、人間と爲りたるものなり、神の聖子が世に降り、童貞の胎内に人の肉體と靈魂とをうけ、其の肉

體を犧牲に供げ給ひたり。神の聖子世に降りたりと雖も聖父と聖靈とを離れたることなし。神の聖子が世に降りて、人間となりたるは一千九百五年以前の事なり。神の聖子は人と爲りて後耶蘇基督と呼ばれたり、耶蘇基督は人と爲る前、始め無く神に在す二番目のペルソナにして、人と爲りて後神性に人性を合せ玉ひたれば、耶蘇基督には兩性あり、神の本性、人の本性是なり。此の兩性は全く相合併して耶蘇基督と云ふ一つのペルソナをなすなり。耶蘇基督は神なり、又人なり。耶蘇基督は神にして全智全能全善なるものなり、又人にして人の

智慧、人の能力、人の働きを有つものなり、耶蘇基督はユダヤ國のナザレットに住へるマリヤと云ふ處女の胎内に孕り玉ひたり。マリヤは特別なる神の御攝理に依りて元罪の汚れなくして孕らせられたる者なり。耶蘇とマリヤより外には元罪の汚れ無くして孕りたるものなし。マリヤは童貞にありながら、貞操をそこなはず、夫婦の交なくして、聖靈の全能に依りて耶蘇を生み玉ひたり。マリヤは耶蘇の神性を生まざれども、耶蘇には神性と人性とは一つのペルソナなるが故に、マリヤを神の母と云ふ。マリヤを神の母と云ふは即ち神たる耶

蘇の母と云ふ意味なり。耶蘇には人間たる父無し。ヨゼフはマリヤの夫なりと雖も、耶蘇の本當の父に非ずして、耶蘇の義父或は養父なるのみ、耶蘇の人として誕生せられたるはユダヤのベトレヘムと云ふ村にして、其村の近所に在る馬小屋の中、十二月廿五日の夜の十二時是なり。耶蘇は三十年間其の神性を隱し、ナザレットに於てマリヤとヨゼフに孝行を盡し、大工の職業を爲し玉ひたり。耶蘇は三十歳になりて、公に其の神性を現はし、眞理を人々に敎へ、神の道を聞かせ、多くの奇蹟を爲し、萬國萬代の人々に完全なる善德の模範となり、十

二人の漁夫を以て敎會を建て玉ひたるなり。

御贖ひと御苦難

耶蘇は三十三歳になりて、一人の惡しき弟子より敵に渡され、其當時の司祭と學者と役人との手に捕はれ、ポンシヨピラトの裁判に訴へられ、死刑に處せられ、種々の恐しき苦み、耻かしめ、痛み等に逢ひ、十字架の上に釘付けられて、金曜日の午後三時に御死去し玉ひたり。斯る苦難を感じて死したるは耶蘇の神性に非ず、其の人性のみなり。耶蘇の死したる時其の靈魂は肉體を離れたれども、神性と人性とは相離れずして、御靈魂にも御死骸にも神性は附隨したりたる

なり。耶蘇は神の二番目のペルソナにして、神の位を有するが故、其の御苦難と御死去の功力は限り無きものなり。神なる耶蘇は己れの身を犧牲に立て、己れを萬民の代りに犧牲に供し、限り無き功德を有する御苦難と御死去を覺へたれば、之に依りて人祖の元罪のみならず、萬代の人々の罪も悉く償のはれたるなり。耶蘇の御苦難と御死去の限り無き功德に依りて、アダムの元罪も免され、神の正義は滿足し、神と人類との交誼復り、如何なる人も再び神の聖寵と超自然の賜を頂くこと、罪の免しを受くること、死して後天國に昇りて、永世と榮

福とを受くること叶ふ樣になりたるものなり。故に世の救世主耶蘇基督の御苦難と御死去は何よりも難有きものなり。

古聖所及御復活と御上天

去の時迄世に生れて死したる人々の中には、死して後天國に昇りたるもの一人も無し、惡人として死したる者は地獄に降り、善人として死したる者は古聖所と云ふ所に降りたり。古聖所に居るものは救世主を待ち兼ねたるなり。耶蘇が御死去なされて後、其の御死骸が新たなる墓に葬られながら、其の靈魂は、古聖所に降りて、

開闢以來耶蘇の御死

其の處に待ち兼ねたる善人の靈魂等に現れて、大歡喜を以て彼等を悅ばしめたり。耶蘇の御死去なされて三日目即ち日曜日の朝の三時頃に、其の靈魂は再び死骸に入りて、其肉體を再び活かし、耶蘇は元の如く活ける人間となりて、墓より出でたり。之を耶蘇の御復活と云ふ。耶蘇は御復活なされて後四十日間此世に居り、其弟子に現はれ、教會を充分に立て、教訓をなし、遂に四十日目に天に上り玉ひたり、之を耶蘇の御上天と云ふ。天に昇りたるは耶蘇の神性に非ずして、其の人性なり、耶蘇の人性の神の位に昇りたるを稱して、耶蘇父の右に座し玉ふと云ふ。最早耶蘇は再び苦難を感ずる事もなく、死することもなくして、其の御肉體は永生を有し、完全なる榮光を有し、超自然の德を有したる者なり。耶蘇と一緒に天國に昇りて、永世と榮福とを得たるものは總て古聖所に在りたる善人の靈魂是なり。耶蘇の御母聖マリヤは特別の御惠みに依りて、死して後ちに其御肉體も天に上げられ、天地の皇后と云ふ位に上げられたり。公審判の未だ行はれざる前には、天國に於て人の肉體として存するものは、耶蘇とマリヤとの肉體の外無し。

耶蘇基督は世の救世主なれば、之より外には人の頼む可き救拯なきものなり。耶蘇基督は萬物の創造主なれば、之より外には神と呼ばれて拜禮さる可き者も無し。耶蘇基督は眞理の源なれば、之を信じ、之に從ふ道の外には、人の眞道もある事なし。耶蘇基督は萬國萬代萬民の王にして、如何なる人にも崇められ、尊敬さる可きものなり。

天主教會

耶蘇は十二人の漁夫を撰び、之を特別に教へ、之に全權を與へ、之を以て其教會の土臺となし玉ひたり。十二人の中ペトロと云ふ者を其教會の頭と

定め玉ひたり。耶蘇の教會を立てたる目的は四つあり、第一眞の教を誤り無く、變り無く世の終り迄守らしむる事、第二眞の教を萬國萬代の人々に示さしむる事、第三人々を天國に導きて彼等を聖人と爲さしむる事、第四人々に我が苦難と死去の功力を與へて、彼等に罪の免を得さしむる事是なり。耶蘇の立てたる眞理の教會を天主公教會と云ふ。天主公教會に依らざれば眞道を辨ふる事も、眞理を分別する事も、罪の赦を受くる事も、聖人と成る事も、靈魂の救拯を得る事も出來ざるなり。ペトロの後嗣耶蘇の名代人にして、全權を以て教會を治

むるものは教皇或はパッパと云ふ者なり。教皇はイタリヤ國のローマ府に住居し、世界各國に在る基督信者を治め、誤り無く眞の教を傳へ、必要なる會規會則を立つるなり。世に在る總ての信者は皆之を尊敬し、其の聲を聞き、之に服從す可きものなり。ペトロの時代より以來絶間無くして後を續ぎ來れる教皇の數は二百六十四人なり。當今の教皇はピオ十世と云ふ。教皇は世界各國所々に代理人を遣はし、彼等に其權を分け與へ、彼等を以て教會の一部分を治めしむるものなり。教皇に遣はされて、教會の一部分を治むる者を司教と云ひ、其一部

分を本教區と云ふ、本教區に屬する信者は皆直接に其本教區の司教に從ひ、司教を以て教皇に從ふなり。司教は又其本教區の處々に代理人を遣はし、彼等に其權を分け與へ、彼等を以て本教區の或る部分を治めしむるものなり。司教に遣はされて司教の名を以て本教區の一部分を治むる者を司祭と云ひ、其一部分を支教區と云ふ、支教區に屬する信者は其支教區の司祭に從ひ、司祭を以て本教區の司教に從ひ、司教を以て教皇に從ひ、教皇を以て耶蘇基督に從ふものなり。世にあらゆる總ての信者は皆方處邦の異なるに係らず、同じ事を信じ、

同じ祈禱を唱へ、同じ聖祭を拜聽し、同じ秘蹟を受け、同じ頭に從ふ者なり。此れは耶蘇基督の眞の教會は唯一なる教會ならざるべからざる故なり。耶蘇基督の教會は一國一代に限らず、人々の間に區別あるにも係らず、萬國萬代萬民の教會なり。是故に之を公教會と云ふなり。其教會に從へば必ず聖人となる。其中には度々有名なる聖人顯はるゝなり。是故に之を聖教會と云ふ。天主教會外の教會は皆耶蘇基督の教會には非ず、僞りの教會にして、人々に救ひを得さしむる力無きものなり。

人の四終

人は靈魂と肉體との配合したる者にして、靈魂の肉體に配合し居る間其人は活き、靈魂が肉體を離るれば、其人は死するものなり。靈魂が肉體を離れて後、肉體は死骸となりて、或は火に燒かれて灰となり、或は土に埋められて、部分にとけて腐るなり。肉體を離れたる靈魂は、其肉體を出づるや否や、彼れの本源且終末なる神の御前に出でて裁判を受るなり。世界廣し。と雖も、其裁判を免るゝ人は、一人も有る事無し。其裁判を私審判と云ふ。其私審判に依つて靈魂の永遠の行くさきは定まるなり。若し其靈魂は神の聖寵を有し、いさかの罪もなく、罪の影だも無くして、全く潔白なれば、

直に天國に昇り、完全なる永世と完全なる榮福と完全なる榮光とを受くるものなり。若し其靈魂は神の聖寵を有すると雖も、小さき罪か、罪の遺跡若くは汚れ等有りて全く潔白ならざれば、暫く煉獄に降り、其處にて罪を償ひ、罪の遺跡若くは汚れを洗ひて、全く潔白となるを得るなり、爾後は其靈魂必ず天國に昇る可し、若し其靈魂神の聖寵を有せず、大罪に由つて惡となるならば、何時迄も神に捨てられ、地獄に陷り、地獄に於て惡魔と惡人との仲間に入りて、永遠火の苦しみと、良心の苦しみ等を受く可し。靈魂は不滅なれば、天國に昇りても、地

獄に降りても、一度其行ける所より二度と再び出る事能はず、何時迄過つても其處に居ることと定まるなり。火に燒かれて灰となり、或は土に埋められて腐りたる死骸は何時迄も無くなるものには非ざるなり。今の世の中の有樣は終る可き時あり。世の終りに至れば、開闢以來其時迄に死したる人々の肉體は皆一人も殘らず、蘇生る可し、即ち神の全能に依つて、其肉體は再び舊の如くになり、再び靈魂に合せられ、再び靈魂に活さる可し、一切の人々の皆蘇生りて後、耶蘇基督は再び天より降り、限り無き威勢と威光とを以て人類一般に現はれ、

公に人類一般を裁判くなり。其裁判を公審判と云ふ、公審判の宣告は私審判の宣告とは違はず、只私審判の宣告を公に知らするのみ。

公審判の後各人の靈魂は其肉體と共に天國に歸るか地獄に歸るか何にか定まりて、善人と惡人とは永遠に別れ、善人は天國に於て靈魂肉體共に永遠樂しみ、惡人は地獄に於て靈魂肉體共に永遠苦しむものなり。

人の眞道

＝神を信じ、神の三つのペルソナを信じ、耶蘇基督の神の聖子にして世の救世主なるを信じ、此小冊子に記されたる總ての事を堅く信じ、洗禮と稱する秘蹟を受けて、元罪の汚れを洗滌られ、神の聖寵を頂き、天主公教會の信者となりて、神の誡と其教會の制定とを善く守り、神を萬事に越へて愛し、他人を己れの如く愛し、罪を犯したらば、教會の司祭より其罪の赦しを得、善を行ひ、惡を避け、神の聖寵を以て死ぬる事は即ち是れ人の眞道にして、天國に到る道なり。之れより外には人間の行く可き道なし。之れより外に道を示す者あらば、之れ誤りなり。神は一體、救世主は一人、眞理も一、教會も一、道も亦一なればなり。

明治三十八年四月一日印刷
明治三十八年四月[illegible]日發行

著者　東京市小石川區小日向茗荷谷町十七番地　フエラン

發行者　東京市京橋區明石町三十五番地　前田長太

印刷者　東京市京橋區築地二丁目二十番地　河本龜之助

印刷所　東京市京橋區築地二丁目廿一番地　株式會社國光社

發行所　東京市本郷區湯島一丁目十三番地　昌平館

58-11

教理綱要

フエラン

国立国会図書館

020408-000-6

特49-806

教理綱要

フェラン／著

M38

ABI-0217